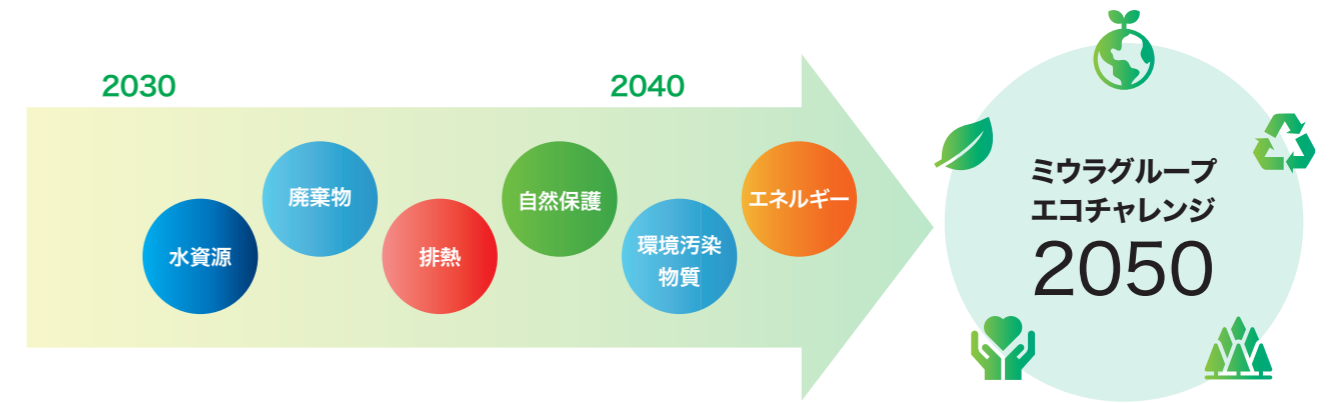


環境長期目標

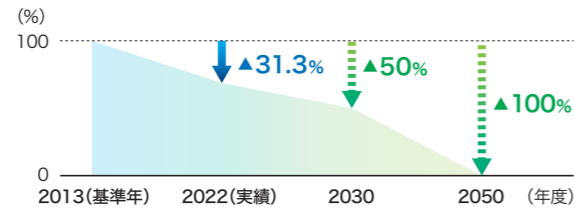
パリ協定の1.5°Cシナリオと日本政府の2030年度のGHG排出量46%削減目標(2013年度比)を鑑みて、事業活動および製品のライフサイクルにおける、GHG排出量、環境汚染物質、廃棄物、排熱、水使用量などを可能な限り最小化する「ミウラグループエコチャレンジ」を行っています。環境長期目標では2050年までのGHG排出量(Scope 1・2・3)の削減および排出物のリサイクル率向上、水使用量の削減についての定量化目標とそれぞれの目標達成のための施策を設定し、2022年4月より取り組みを進めています。



脱炭素社会への取り組み

- 省エネルギー活動によるGHG排出量(Scope 1^{*1}・2^{*2}・3^{*3})の削減
※ Scope 1・2の算定範囲は、三浦工業および国内製造子会社

Scope 1・2排出量



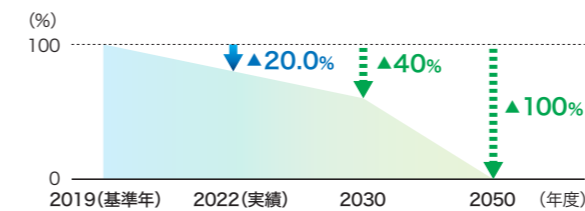
削減目標

年度	削減率 (%)
2013年度(基準年)	0%
2022年度(実績)	▲31.3%
2030年度	▲50%
2050年度	▲100%

目標達成のための施策

- 溶接ロボットやコンプレッサ、射出成形機器等を省エネモデルへ更新
- 太陽光発電設備、照明のLED化、遮熱材の導入
- 空調デマンド制御によるエアコンの省エネ設定
- 上記の自助努力を実施のうえ、目標に対して実績がともなわない可能性がある場合、グリーン電力およびJ-クレジットの購入

Scope 3排出量(売上原単位)



削減目標(売上原単位)

年度	削減率 (%)
2019年度(基準年)	0%
2022年度(実績)	▲20.0%
2030年度	▲40%
2050年度	▲100%

目標達成のための施策

- 中長期にわたる2段階の削減戦略として、
- ① ボイラの燃料転換(油→ガス)と高効率化、廃熱回収・未利用熱回収、省エネ診断
- ② 新燃料対応(水素、アンモニア等)およびメタネーション対応、トータルソリューション提案の推進

2023年3月期の取り組み(Scope 1・2)

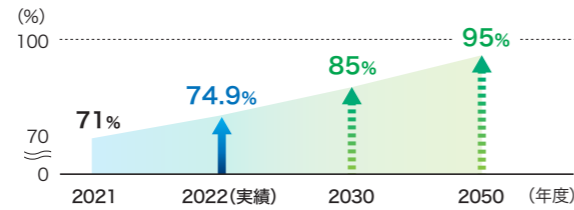
- 工場内のすべての棒グラインダーを電気式から充電式に変更し、省エネ化(三浦工機(株))
- リモコンスイッチの導入によりこまめな消灯を可能にし、省エネ化((株)三浦マニファクチャリング)



資源循環社会への取り組み

- 国内工場の廃棄物の削減(排出物のリサイクル率向上)
※ 算定範囲は、三浦工業(支店を除く)および国内製造子会社
- 国内工場の水使用量の削減

排出物のリサイクル率



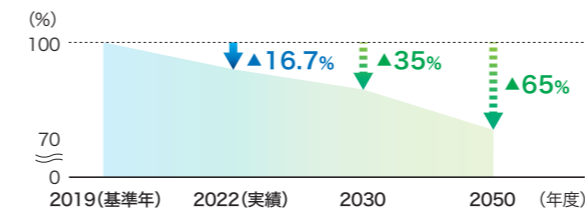
リサイクル目標

年度	リサイクル率 (%)
2021年度	71%
2022年度(実績)	74.9%
2030年度	85%
2050年度	95%

目標達成のための施策

- ごみ分別
- リサイクル率向上のためのリサイクル会社開拓
- サプライヤーからの梱包材の削減化や通い箱の活用化
- 再生しやすい素材の部材の選定
- 端材が出ない加工品の購入

水使用量(売上原単位)



削減目標(売上原単位)

年度	削減率 (%)
2019年度(基準年)	0%
2022年度(実績)	▲16.7%
2030年度	▲35%
2050年度	▲65%

目標達成のための施策

- 自社製品を利用した試験運転水用途などへの利用
- 排水リサイクルシステムの導入
- 試験時に発生する蒸気の回収利用

2023年3月期の取り組み(水使用量)

- 節水コマの活用による節水(三浦工機(株))
- 気密試験水をろ過し、水の再利用((株)三浦マニファクチャリング)



ミウラグループ
エコチャレンジ
2050



自然共生社会への取り組み

- 「ミウラの森」森づくり活動を通じた自然保護と「ビオトープ」の維持



有害物質抑制社会への取り組み

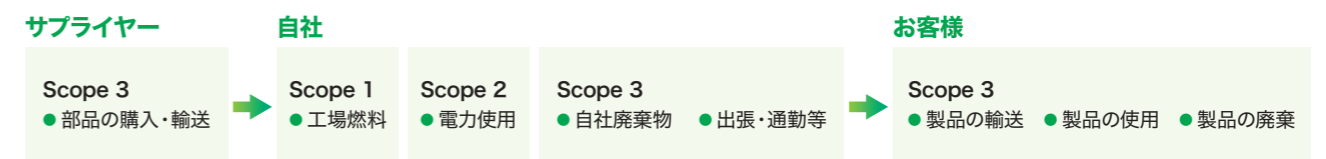
- グリーン調達の実進による有害物質含有の低減
- 環境事故ゼロ



環境に優しい社会への取り組み

- LCA(環境影響評価)の指標および枠組みの決定と評価
- 国内・海外グループ会社の環境データの一括管理および環境活動の強化

ミウラのサプライチェーン排出量



※1 Scope 1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、温対法基準(エネルギー起源)

※2 Scope 2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用にともなう間接排出

※3 Scope 3: Scope 1、Scope 2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)